

総合的な学習の時間

1 ねらい

「よりよく問題を解決する力」を身につけ、「自己の生き方を考えることができるようにする」ことをめざし、「課題設定の力」「課題追究の力」「表現する力」「生活に生かそうとする力」を育てる。

2 テーマ

「世界に発信！ SSP（更科SDGsプロジェクト）～更科の人・地域に学ぶ～」

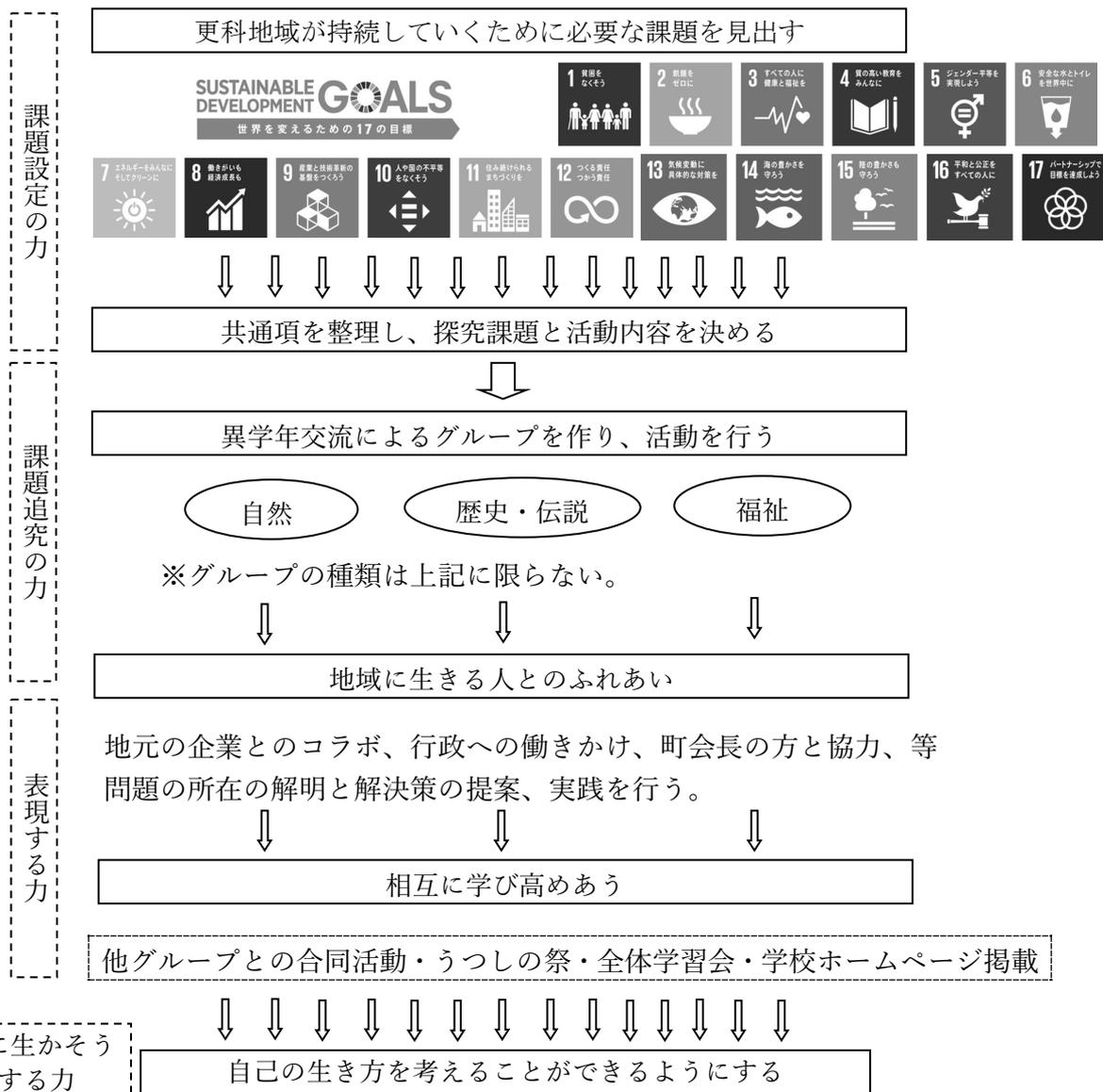
3 内容

小規模校の特色を生かした異学年交流のグループ構成で、地域の方と交流を持ちながら活動する。

持続可能な開発のための目標（SDGs）の視点から、更科地域が持続していくための課題を見出し、解決に向けた活動を行う。

テーマ

「世界に発信！ SSP（更科SDGsプロジェクト）～更科の人・地域に学ぶ～」



4、全体の成果と課題

今年度のSSPでは、生徒一人一人の興味・関心を大切にしました。

オリエンテーションでは、目的が「自ら課題を見つけ、様々な方法で資料を集め、多くの人に発表する活動を通して、自らの人生をよりよくするために必要な情報の集め方と自律的に探究していく態度を身につけること」であることを確認し、内容として「自ら知りたいことを、とことん調べ、多くの人の前で発表する活動」であるとした。

更科中学校が、永年培ってきた研究成果を振り返り、SSPを意識し、自らの興味・関心を、ウェビングなどを利用しながらテーマを探し、同様のテーマを持つ仲間とグループをつくり、様々な資料を集めた。

インターネット上の情報や文献なども活用し、校外に出て、必要なサンプルを採取したり、実際に料理などをしたり、いろいろな人にインタビューしたり、実際に体験したりするなど、「更科の将来のための発信」を本校文化祭『うつしの祭』で保護者・地域の方々に発表することができた。

課題としては、中学校の総合的な学習の時間を活用して行われている活動なので、時間や場所などの制約を受けることが多い。今年度は、校外での活動を予定した日に雨や高温な天候にあたり、十分な調査ができないときもあった。また、安心・安全な活動を保証するためには指導者の人数を確保する必要があり、本校の事情から適切な教員数を確保することが難しい時もあった。次年度は、より柔軟に対応できるように教育課程を工夫したい。

5、各グループの探求の成果

①歴史班

今年度は更科地域にある神社仏閣、力石、軽便鉄道についてフィールドワークを中心に調査を行った。神社仏閣の調査では更科地域にある神社と仏閣の所在地と由来について実際の場所に赴くことで調べることができた。力石の調査では力石の由来や伝承を調べ、フィールドワークを行い、実際の大きさや重さなどをまとめることができた。最後に軽便鉄道の調査では、今はなき軽便鉄道が通っていた場所を歩くことで当時の情景を想像しまとめることができた。また、八街市教育委員会様に協力していただき、軽便鉄道を走っていた汽車の大きさを調べることもできた。

フィールドワークで得た情報をまとめ、発表することで自らの地域の特色を再発見することが出来るとともに、世界へ発信もすることができた。これにより、他の地域に残る力石などの遺構に再び焦点があたる一端を担うことができた。

②エイリアンプランツ班

昨年度に引き続き更科地区の外来植物の生息調査と減らす方法について実験や考察を行った。今までは鹿島川流域の外来植物の増減を確認していたが、もう少し身近な竹害についても調査、考察を行った。その結果今まで調査してきたクレソンは減少傾向にあるものの、レモングラスなど他の外来植物の増殖を確認することができた。外来植物の生息域調査を継続的に行うことは、環境の変化に伴う外来植物の増減を把握するうえで有効な手段である。さらに外来植物を資源として活用する試みもなされており、本活動は挑戦的な内容である点が大きな意義となっている。

③隕石班

今年度は、更科小学校・更科中学校の屋上に堆積した砂等を調査した。微小隕石の存在を求めて、光学顕微鏡を用いて試料を観察することができた。この観察実験を通して、生徒たちは石や砂から垣間見える結晶の構造に興味をもち、屋上に残る生物の痕跡から地域の生態系に興味をもった。微小隕石の存在を実証することは難しかったが、石や砂の中に存在している人工物の存在から、我々人間が如何に環境に影響を及ぼしているかなど、環境保全の分野にも思考を広げることができた。

今後は、さらに調査を進め、微小隕石の存在を明らかにし、分かりやすい形で発表したいと考えている。そのためにも、今年培った顕微鏡操作の技術をさらに向上させ、調査研究を継続しながら更科地域の環境保全のためにも貢献できる探究活動を目指したい。

④地球温暖化班

地球温暖化の防止のために、更科地域を生かした取り組み方法を調査した。二酸化炭素の削減に着目して、自然豊かな更科地域の特徴を考え、地域に生息している植物を調査し、特に多く生息している植物を対象に二酸化炭素の吸収量に関する実験を行った。1年生3人の班で、前年度からの積み重ねがない中で自主的に考え、調査を行い、地域植物の活用に関する考察が行うことができた。今後、さらに専門的な視点から調査を行い、より身近に取り組める方法を考えていくなど、発展に期待が持てる内容であった。

⑤福祉班

過去の活動を継続させることを中心に調査を進めていったが、内容を発展させ郷土料理を祖母などの家族から教えてもらい、発生した生ゴミを堆肥にして使うことにつなげることができ、活動の幅を広げることが出来た。様々な観点から環境を守ることに加えて、更科地域の伝統を継承していく方法についても考えることができ、更科地域の福祉についてより深く根付かせる調査になった。

⑥多様性スポーツ班

高齢者が安全に楽しめるスポーツについて調査を行い、高齢者疑似セットを活用した歩行体験やボッチャ体験を実施した。これらの活動を通して、加齢による身体機能の低下を実感し理解することができた。また、高齢者施設を訪問し、高齢者が運動を行う際に施設側が配慮している安全面での注意点や工夫について聞き取りを行い、今後の活動に生かすための知見を得ることができた。さらに、うつしの祭において高齢者体験コーナーを設置し、生徒や小学生が実際に体験する機会を設けることで、調査や体験を通して得た成果を幅広い世代に共有することができた。本探求の対象生徒は1年生であるため、3年間の継続的な活動計画を見据え、3年次には更科地域を巻き込んだ取組へと発展させていくことを今後の目標とする。